

巨大地震の多様性とそれに応じた減災対策

金森博雄

カリフォルニア工科大学名誉教授

地震学は広帯域地震学や GPS の発展によりこの 30 年ほどの間に地震の発生様式を理解する上で長足の進歩をした。その結果、地震の震源スペクトラムの多様性が明らかになり、それに応じた防災対策が必要と考えられるようになった。ある地域の地震については将来の地震活動を地震や GPS のデータを用いて科学的に予測できるようになった。このような予測は長期の防災対策にはきわめて重要である。しかし破壊現象には偶発的な要素が多いので、そのような予測には大きな不確実性が伴い、たまには予期しないような地震が起こりうる。最近のリアルタイム地震学の発展によりそのような想定外の地震や津波にもある程度対処できるようになった。地震の多様性のよりよい理解と最新のリアルタイム技術を用いることが包括的な防災対策として最も重要である。